

令和元年度 自己評価結果

平安幼稚園

1. 教育・保育理念

子どもの幸せのため、子どもの権利条約（①生きる権利 ②育つ権利 ③守られる権利 ④参加する権利）を遵守し、人格主義の基本理念（誠実・忍耐・勤勉）と良心を育てる。

2. 教育方針

本園の教育は園児の言語（英語を含む）、情緒、行動、社会性および身体の調和的発達を助長し、望ましい人間形成を目指すものである。

3. 教育目標

- ①読み書きができる賢い子ども
- ②情緒が豊かで明るい子ども
- ③よく考え、進んで行動する子ども
- ④仲良く遊び、協力し合う子ども
- ⑤身体が丈夫で逞しい子ども

4. 本年度に定めた重点的に取り組む事が必要な目標や計画

- ①園児一人ひとりに合わせた教育・保育の充実
- ②職員資質向上のための研修の充実

5. 評価項目の達成及び取組状況

評 価 項 目	結 果	備 考
(1) 建学の精神や教育、保育理念に基づいた幼稚園の運営状況	A	
(2) 幼稚園の状況を踏まえた教育目標等の設定状況	B	
(3) 幼稚園の教育課程の編成・実施の考えについての教職員間の共通理解の状況	B	
(4) 学校行事の管理・実施体制の状況	A	
(5) 年間の指導計画や週案などの作成の状況	B	
(6) 遊具・用具の活用	B	
(7) ティーム保育などにおける教員間の協力的な指導の状況	B	
(8) 幼児に適した環境に整備されているかなど、クラス経営の状況	B	
(9) 幼稚園教育要領の内容に沿った幼児の発達に即した指導の状況 ・環境を通して行う幼稚園教育の実施の状況 ・幼児との信頼関係の構築の状況 ・幼児の主体的な活動の尊重 ・遊びを通しての総合的な指導の状況 ・一人一人の発達の特性に応じた指導の	B A B B B	

(10) 日常の健康観察や、疾病予防のための取組、健康診断の実施の状況	A	
(11) 事故等の緊急事態発生時の対応の状況	A	
(12) 法定の学校安全計画や学校防災計画等の作成・実施の状況	A	
(13) 危機管理マニュアル等の作成・活用の状況	B	
(14) 安全点検や、教職員の安全対応能力の向上を図るための取組の状況	A	
(15) 個別の指導計画の作成の状況	A	
(16) 家庭との連携状況	A	
(17) 園長など管理職の教育目標等の達成に向けたリーダーシップの状況、 また、多くの教職員からの信頼の状況	A	
(18) 校務分掌や主任制等が適切に機能するなど、幼稚園の明確な運営・責任体制 の整備の状況	A	
(19) 各種文書や個人情報等の学校が保有する情報の管理の状況、 また、教職員への情報の取り扱い方針の周知の状況	A	
(20) 学校保健法、労働基準法等の各種法令の遵守状況	A	
(21) 保育研究の継続的实施など、指導改善の取組の状況	B	
(22) 園内における研修の実施体制の状況	A	
(23) 園内研修の課題の設定の状況	B	
(24) 園内研修・園外研修の実施・参加状況	A	
(25) 指導が不適切である教員の状況の把握と対応の状況	A	
(26) 教育目標の設定と自己評価の実施状況 ・ 幼児や幼稚園の実態、保護者の意見要望等を踏まえた幼稚園としての目標等の設 定の状況 ・ 目標等を踏まえた自己評価の項目の設定状況 ・ 自己評価が年に1回以上定期的に実施されているかなどの実施状況 ・ 自己評価の結果の翌年度の目標等の改善への活用状況 ・ 全職員が評価に関与しているかなどの体制の状況 ・ 自己評価の結果の設置者への報告と状況	A A A A A A	
(27) 幼稚園に対する保護者の意見・要望等の状況 ・ 保護者の満足度の把握の状況 ・ 教育相談体制の整備状況、保護者の意見や要望の把握・対応状況	A A	

(28) 幼稚園に関する様々な情報の提供状況	A	
(29) 幼稚園公開の実施の状況	A	
(30) 幼児の個人情報の保護の状況	A	
(31) 学校評価結果の公表状況	A	
(32) 園便りやクラス便りの発行など、主として保護者を対象とした情報の提供状況	A	
(33) 情報提供手段として、ホームページを活用するなど、広く周知するための工夫の状況	A	
(34) 保護者の実情や要望による幼稚園の子育て支援活動の実施状況	B	
(35) 園や教職員による受け入れ体制の状況	A	
(36) 幼稚園の目的、教育課程との関連、幼児の負担、家庭との連携等への配慮	B	
(37) 施設設備 ・施設設備の活用状況 ・設置者と連携した施設・設備の安全・維持管理のための整備の状況 ・設置者と連携した幼稚園教育の情報化の状況	A	
(38) 遊具・用具・図書等 ・設置者と連携した遊具・用具・図書等の整備状況	A	

6. 本年度に定めた重点的に取り組む事が必要な目標や計画の考察

結果	理由
B	<p>① 身近にある動植物を取り入れた保育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園庭にある動植物を観察したり、各学年で野菜の栽培を行う等、環境を活用した取り組みを行った。収穫まではいかなかったが、以前に比べ動植物に興味を持ち、触れる楽しみを感じることができた。次年度は、当番制で飼育活動をしたり、収穫した野菜でクッキングをする等、次に繋がるような活動を取り入れたいと思う。 <p>② 園児が主体となった活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園児一人ひとりの考えや思いを受け止め、日々の保育の中で、子どもたちの興味のある事、やってみたい事を取り入れていった。 ・園児が好きな遊びを選び、遊び込むことで、遊びを発展させ自由に活動する楽しさを感じることができた。今後は、継続した遊びを取り入れ計画したいと思う。

7. 総合的な評価結果

- ・園の環境を活かす保育を心がけ、動物と触れ合ったり、植物を栽培することで、子どもたちの興味関心を育て、情操教育の一つとして良い経験が出来た。今回の新たな取り組みを一步に、次年度は、飼育活動や食育活動を意識して保育計画をしていきたい。
- ・日々の保育の中で、主体的な取り組みを意識し、子どもたちが自由に選択できる環境構成を行った。そのため、仲の良いお友達と好きな遊びを十分に楽しみ、発展させることができた。次年度は、季節に合わせた内容や、年間を通して継続した取り組みが出来るように努めていきたい。
- ・各行事では、子どもたち一人ひとりが心を一つにし、同じ目標に向かって取り組むことが出来た。行事を通して、それぞれが成長したように感じましたが、日常生活の中でも成長が見られるように、園と家庭で連携をとり生活面等も指導できるようにしていきたい。

8. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
基本的な生活習慣の確立	家庭と連携をとりながら、基本的な生活習慣の確立（食事・睡眠・排泄・清潔・着脱）に努める。また、挨拶をすること、約束を守ること、お友達に優しくすること等、人として大切なことが身につくように、日々の保育の中で指導していく。
主体的な遊びの充実	子どもたちの興味のあることや、やりたいことを十分に楽しめるような環境づくりに努め、日々の活動や、年間を通して継続できる取り組みを計画する。

◎「4. 5」の評価結果の表示方法

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取り組まれているが、成果が十分でない
D	取り組みが不十分である